

ウィンターカップ2016静岡県予選大会展望

文： 中島 洋己

(静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立科学技術高校教諭)

第47回全国高校選抜優勝大会（ウィンターカップ2016）静岡県予選が平成28年10月22日に県内高校体育館で開幕する。11月13日に静岡県武道館で行われる男女決勝戦の勝者が12月23日に東京体育館で開幕する全国大会への出場権を獲得する。

【男子】

ここ数年、4強と呼ばれた沼津中央、浜松学院、藤枝明誠、飛龍がハイレベルな横一線の戦いを繰り広げてきたが、インターハイ県予選を見る限り沼津中央と浜松学院が大きく抜け出したように思われる。今大会もこの2校を中心とした熾烈な優勝争いが繰り広げられるのは必至である。

インターハイ県予選優勝の沼津中央はサンブー・アンドレ、山田陸の高さを生かしたインサイドプレーを軸に内外にバランスのとれたオフェンスのバスケットを展開する。県内最高身長202cmのサンブーは持ち味のダンクやアリウープにも磨きがかかり、まさに攻撃の要である。その反面、執拗なプレスやファウルで集中力を欠くこともしばしば見受けられた。チームの勝利のカギを握るプレーヤーだけに常に冷静な判断をし、周りが彼をフォローしていくことが出来るかが見どころである。主将の藤原佑介は得意のディフェンスから走る展開へとつなげるバスケットが魅力。サンブーとともにインサイドの柱となる山田は右足の怪我の回復が心配されたが全国総体や東海国体ではそれが杞憂となるほどのハツラツとしたプレーを見せてくれた。この3人に加え、苦しい展開の中でも度胸よく放たれる鈴木翔の3Pシュートが確実に決まり、さらに中盤の宮澤亮がゴール下のサンブーにつなげる場面が多く見られる沼津中央本来のバスケットが出来れば、2年連続の県予選優勝、ウィンターカップ出場も現実味を帯びてくる。

浜松学院は走り続けるバスケットが信条。広島インターハイでは1、2回戦は相手を全く寄せ付けない圧勝。3回戦では外国人留学生を2人抱える新興勢力、優勝候補の一角にも挙げられた開志国際（新潟）に延長の末惜敗したが、全国トップレベルの実力を見せた。191cm、日本人最高身長のセンター・田中旭は外国人留学生や相手ビッグマンの高さに十分な対応が出来ず辛酸を舐めた日々もあったが、フィジカルだけでなくメンタルの強化にも努めプレーに余裕が出てきた。さらにはアウトサイドからの得点パターンも確立し、攻撃にも幅が出た。ガード陣は伊藤颯太と石川晴道のツーガード。主将の伊藤は試合中もキャプテンシーを十分に発揮、相手のガードに密着し攻撃を遅らせパスミスなどターンオーバーを誘発させるプレーを得意とする。石川は攻撃的なPGでシュートフェイクからのノールックパスはまさに超美技。自身もアウトサイドから積極的に得点を狙う。シューターの横川真那斗は「天下の宝刀」3Pシュートが冴えわたり、インターハイの豊浦戦でも6本成功、外だけでなくドライブでも好機を演出するマルチプレーヤーである。昨年の県予選でダンクシュートを放ち観客を沸かせたダシルバヒサンは春先に痛めた右足が心配されるが、高いポテンシャルを持ちチームを勝利に導く原動力となるであろう。横山寛太のように球際の泥臭いプレーに精

進する選手もいるだけに、チームが豊浦戦で見せた相手に吸い付くような厳しいマンツーマンディフェンスでリズムに乗りきれれば15年ぶり、そして現校名・浜松学院となって初めての県予選優勝が見えてくる。

この2強の独走に待ったをかけるのが、県総体決勝リーグで2強としのぎを削った藤枝明誠と飛龍。藤枝明誠は決勝リーグ最終戦で飛龍に競り勝ち東海総体最後の切符を手にした一方で、インターハイの連続出場が10年で途切れた。今大会は雪辱を期して臨むであろう。4月に中学指導で全国的な実績を残した阿部桂氏を新監督に迎え、秋までには監督の戦術がチームに浸透するはずである。チームの中心・富田一成は力強さと手先の器用さを生かしたプレーだけでなく、アウトサイドから得点を重ねチームに勢いを与えるプレーヤーである。司令塔の森大空はスピードが持ち味で当たり負けしないフィジカルを誇る。200cmの中国人留学生・張新鋒、190cm級の富永涼介、照井龍次、南サーマン、石井竜馬などセンター陣の高さにおいては県下随一である。順調にいけば準決勝で予想される浜松学院との戦いが2年ぶりの賜杯奪還に向けて大きなカギとなる。

10年ぶりの優勝を狙う飛龍は背水の陣でこの大会に臨む。県総体は沼津中央、藤枝明誠に惜敗し4位、3年ぶりにインターハイを逃してしまった。それでも戦力的には他3チームと比べ勝るとも劣らないものを持っている。スコアラーの廣岡耕平は華麗なシュートフォームからリングに吸い込まれるような軌道を描く3Pシュートを得意とする「アウトサイドの魔術師」である。ただ入らないとそのままカウンターで失点を許してしまうこともあり、195cmの中国人留学生・馮俊凱のリバウンド支配が生命線となる。その馮はゴール下での強さを発揮し、裏パスをも器用にこなすテクニシャンである。主将の山本留佳は常にポジティブ思考で個性派軍団をまとめ上げチーム力の底上げに貢献している。下級生にも国体県選抜選手・松下裕汰や1年生の関屋心など有望選手を多く抱えるチームだけに、夏からの上積みは今大会で発揮し、準備と努力は裏切らないことを証明したい。

この4チームを追うのは浜松開誠館。ここ3年県内大会ではすべてベスト8以上。しかしながら4強入りは平成25年度県新人4位以来果たせていない。今年の県総体ブロック決勝では沼津中央に肉薄、王者を土俵際あと一步のところまで追いつめた。国体選手の二村響、神田誠仁、そしてチームを支える大黒柱・神田諒成など戦力も充実しており、4強の牙城を崩すのはもはやこのチームしかないだろう。創部5年目の若いチームは一気にウィンターカップ初出場を狙う台風の目である。言うまでもなく、準々決勝での対戦が予想される浜松学院との戦いが運命を大きく左右する。1点を争う白熱した好ゲームになること間違いない。

ここ2年間県内大会すべてベスト8をキープしてきた伊豆中央や県新人、県総体ベスト8・三島北の公立勢は主力の3年生が引退し苦しい戦いが予想されるが、夏のトップアスリート事業にも選ばれた渡辺寛人、井村飛美希（伊豆中央）や菊澤裕（三島北）などを中心に新メンバーでどこまで戦えるか注目したい。また同じく県総体ベスト8の浜松西は刑部克輝、玉木健太郎の成長が著しく、今大会でのさらなる躍進が期待される。

【女子】

現在常葉学園が5連覇中ではあるが、まさに「群雄割拠」の言葉がふさわしい静岡県高校女子。近年まれに見る大混戦が予想される。

その中でも優勝の大本命は県総体で優勝、創部54年目にして初の県制覇を成し遂げた**浜松開誠館**。県新人、県総体で女王・常葉学園に連勝、鍛え上げられた脚力をベースにした厳しく激しい粘りのディフェンスからの速攻が持ち味のチームで得意のロースコアゲームに持ち込み勝ち続けてきた。司令塔でエースの**陽本麻優**は1対1のディフェンスに絶対の自信を持つ。攻撃では相手ディフェンスにマッチアップされながらも度胸あるシュートを放ち、安定したプレーでチームを牽引、県総体優勝の原動力となった。ドライブで高い得点力を持つ**石田悠月**、167cmながら誰よりも粘り強いリバウンドを見せ、3Pシュートも得意とする**栗田真生**、フィジカルを強化し果敢なブロックショットでゴール下を死守する174cmセンター・**樋口栞帆**、不断の努力で大怪我から復帰し今大会に照準を合わせる**奈須希咲**、そして1年生ながら東海国体にも出場した**石牧葵**など多彩な戦力による全員バスケで初優勝、そして28年ぶりのウィンターカップ出場を狙う。西部地区に昭和61年度の浜松市立以来、30年ぶりの優勝をもたらすことが出来るかも楽しみである。

対抗の1番手は県総体準優勝の**市立沼津**。決勝リーグでは常葉の猛迫を振り切り、3年ぶりのインターハイ出場を決めた。高さが無い分、オールコートマンツーマンでプレッシャーをかけ相手のミス誘うなど巧みなバスケットが魅力。インターハイ2回戦では関東王者・八雲学園の高さに屈したが、エース・**武藤誉敬**が24得点。168cmと全国的に見れば長身とは言い難いが粘り強くリバウンド、ルーズボールを拾う献身的なプレーを随所に見せる。シューターである**梅田真紘**は外角からの3Pシュートを得意とし、八雲戦でもロングシュートを確実に決め相手に食い下がった。中盤の**市川千風**はインターハイ1回戦の近江兄弟社戦で20得点を挙げるなど得点源となる選手。またチームの支柱である**小野愛加里**は抜群のディフェンス力、リバウンド力を誇り、守りからリズムを作っていくユーティリティープレイヤーである。県選抜に選ばれた**遠藤真帆**のように下級生にも非凡な選手を抱える恵まれた戦力の中で、相手ディフェンスが整う前に崩すブレイクと常に動き続けるパスアンドラン、そして時折絶妙なタイミングで見せる効果的なゾーンディフェンスが有機的に機能すれば、6年ぶりの優勝の可能性も十分ある。

インターハイに出場した2チームを追うのは現在2度目の5連覇中、男女通じて大会史上初の6連覇を狙う**常葉学園**。県新人は浜松開誠館、県総体では開誠館と市立沼津に敗れ、優勝と全国大会には届かなかったが持ち前の堅いディフェンスと鍛え上げられた脚力・集中力を武器に優勝を狙う。エース・**高橋夏瑠**は不断の練習でシュートの成功率が劇的に上昇してきた。昨年この大会で驚くべきリバウンド力を見せた**野本陽香**は国体や台湾遠征などで経験値を積み重ね立派な攻撃の軸として成長した。シューティングガードの**伊東かおる**も野本同様経験を積み、高いポテンシャルを実践で発揮できるようになった。主将の**伊東ひかる**、中盤の**造酒祐香**など自身の役割をきちんと理解しそれを仲間に伝えコート上で発揮できる力を持つ選手も多い。県新人、県総体とここまで西部勢の後塵を拝してきたが、終わってみれば今大会覇者も女王・常葉、ということも考えられる。女王の意地に期待したい。**山下あい**、**北村音緒**、**見崎菜摘**など下級生にも優秀な人材が多いことがこのチームの伝統的な層の厚さを物語っている。

東海総体に出場した上記3チームに続き、県総体4位の藤枝順心、ブロック決勝で惜しくも常葉学園に破れた駿河総合、そして県新人覇者の浜松学院が横一線に並ぶ。

中部4位で臨んだ県総体ブロック決勝で県新人優勝の浜松学院を番狂わせの勝利で破り、初の決勝リーグ進出を果たした**藤枝順心**は主力だった3年生が引退、1、2年生のみの新体制で臨むが戦力は全く落ちていない。司令塔の**杉本ちひろ**は1対1で相手を抜く技術にたけ、アウトサイドシュートの成功率も高い。簡単にシュートを打たせないディフェンス力も評価され東海国体のメンバーに選出された。1年生には**駒形伊恭**、**柴田珠リ亜**、**滝澤有希**、**山藤うらら**など藤枝順心中学時代に岩手全中出場を果たした選手が多く、伸びしろがあり成長がととても楽しみなチームである。この夏の練習の成果を十分に発揮し、まずは地元藤枝市・県武道館で開催される準決勝、初のメインコートを目指しその先の決勝、そして優勝をも狙う。

駿河総合は県総体ブロック決勝、残り30秒で常葉学園に逆転を許し3年連続のインターハイ出場を逃した。粘りのディフェンスと多彩なオフェンスをモットーとし、高さが魅力のチームである。登録選手の平均身長は県内一の167.6cm。2位の常葉学園164cmを大きく上回る。176cmの**寺尾友里**、174cmの**小山内パメラウゴ**、172cmの**長嶋アンソニー真弥**など長身選手は数え上げればきりが無いが、その中でも県内最高身長・178cmの**加藤陽**は恵まれた体格を生かした迫力あるプレーが魅力で、東海国体では静岡県少年女子の「砦（とりで）」としてゴール下を任され強豪・愛知、岐阜とも互角に渡り合った。加えて攻撃力にも優れ、鍛え上げたジャンプ力を利してのリバウンドショットで何度もチームの危機を救ってきた。1年の春からスターターとしてチームを引っ張ってきた司令塔の**西村茉優**とともに、悲願の初優勝はこの2人の頑張りに懸かっていると看做しても過言ではない。準々決勝での対戦が予想される市立沼津との戦いは大会屈指の好カードである。

県新人で初優勝し、総体、選抜、新人を通じて西部地区に26年ぶりの優勝をもたらした**浜松学院**は優勝候補に挙げられた県総体のブロック決勝で藤枝順心にまさかの敗戦、全国大会初出場を逃した。ウィンター県予選は過去2年連続で準々決勝敗退しているだけに県新人時の勢いを取り戻し一気に県制覇に持ち込みたい。台湾遠征でも県選抜主将を務めた**古野実希**はスピードあふれるプレーが特色。**添田南葉**は優勝した県新人の決勝・浜松開誠館戦で第2Q10分間で4本の3Pを決めるなど躊躇しないシュートセレクションで味方の士気を鼓舞する。また司令塔の**加藤百夏**は華麗なパスワークと勝負強いドライブでチームに勝利をもたらす。インサイドには173cmの古野と172cmの**添田涼葉**が待ち構える。準々決勝で対戦が予想される浜松開誠館とは今季2勝1敗と勝ち越している。総体王者を倒して一気に全国まで駆け上がり県勢初の男女アベックウィンターカップ出場を果たせるか、注目したい。

そのほか、県総体ベスト8、的確な状況判断で緻密なゲームメイクが出来る経験豊富な司令塔・**濱本希代加**を擁し、次世代のエース・**糟谷栞里**も着実に育ってきた**東海大静岡翔洋**、この大会一昨年ベスト4、昨年ベスト8と安定した成績を収め、台湾遠征メンバーにも選ばれた**飯島桜**や軽快なフットワークを誇る**松原明音**を中心とした新チームで臨む**浜松海の星**、そして**宮澤しなの**、**石橋由衣**、**本橋成奈**など中学時代に東海中学総体出場経験を持つ技巧派選手が揃う**西遠女子学園**もまずは確実に聖地・県武道館への出場切符獲得を目指す。